

(1) 健康な心と体

園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。



保育者の援助と環境構成

子どもたちは、少し難しいことにも挑戦し始めます。保育者は、子どもたちが安心して取り組めるように、「そんなにすぐにはできないと思うよ。」「繰り返すって大事なんだよね。」「先生応援するからね。」と、声をかけていきます。思うようにいかず「今日はやらない。」と言う日もあります。それでも、もう一度取り組み始める姿が見られます。一人一人の心の動きを捉えながら、今、この子に必要な言葉がけは何かを考えながら接しています。

よかったね！

まだまだ暑さの残る9月下旬、園庭に飛び出していく5歳児の子どもたち。竹馬、鉄棒、縄跳び等、自分がやれるようになりたいことに夢中になる。保育者が縄跳びの連続跳びをする姿を見てやりたくなる子や、難しいと思っていたが、友達が繰り返して竹馬に乗れた姿や笑顔を見て、自分もできるかもしれないと思った子もいた。葛藤も味わいながら、自分と向き合う。初めて逆上がりができた子に駆け寄り、「よかったね！」と、笑顔で拍手を送る姿も見られた。



保育者の援助と環境構成

子どもたちは、みんなのために仕事をすることに喜びを感じるようになります。弁當時のやかんを運ぶこともその一つです。食事の時間が短くならないように、できるだけ速やかに友達を誘い、運んでいる姿が見られます。保育者から「お疲れー。」「ありがとうね。」と声をかけてもらえるのもうれしいことです。楽しく食べる園での食事の時間。健康に大きくなるためには、いろいろな食材を食べることが大切であることを、視聴覚教材等を使って伝えています。

お弁当だー

午前中、思いっきり遊んだ後に出てくる言葉は「おなかすいたー。」「お弁当にしよう！」である。元気な体は、おいしく食べることから始まる。5歳児は手をきれいに石鹸で洗い、友達と声をかけ合い職員室へ向かう。「やかんを取りに来ました！」「お願いしますね！」と、園長先生とやり取りをして、ワゴンを運ぶ。4歳児のクラスにもやかんを届ける。クラスに戻ると、友達から「ありがとう。」の声をかけてもらう。みんなで食べる食事の時間は、子どもたちにとって、楽しい時間になっている。

避難訓練実施



子どもたちには、大切な命はたった1つであることを、いろいろな場面で伝えています。地震等の自然災害をニュース等で目にすることもあります。安全指導や避難訓練は、過度に怖がらせないように配慮しつつ、年間の計画に基づいて行っています。繰り返すことで、自分の身の守り方が身につき、保育者の話をよく聞いて行動するようになります。

保育者の真剣さは子どもたちに伝わります。

